

クラス番号	224	ゼミタイプ	サービスラーニング型 (NPO 型)
		担当教員名	大林 由美子
テーマ	子どもを主人公とした地域づくりについて、市民活動を通して学ぶ		

ゼミナール概要

<担当教員の自己紹介>

私が福祉に興味を持ったのは、大人になってからでした。我が子を目の前にした時、この養育を将来の仕事にしたいと考えるようになり、子どもをおんぶしながら保育士の勉強をはじめました。託児・宅老所（当時はそのように表現されていました）で働きはじめましたが、高齢者支援や地域づくりに魅力を感じ、高齢者分野を中心にソーシャルワーク実践をしてきました。現在も「住民主体の地域づくり」や「認知症の方や家族を支える地域づくり」に興味関心を持ち、研究・実践をしています。

<目的・内容・方法>

知多半島には、多くの NPO があります。NPO は、地域にある課題に気づき、市民として何ができるかを考え、活動を通して課題解決していく等、志や使命（ミッション）を持ち立ち上がった団体です。

本ゼミでは、知多半島の NPO 団体の地域貢献活動に参加させていただくことにより、課題解決をしている実践に関わることができます。活動に参加し、子どもを取り巻く環境や地域について知り、地域で今何が求められているのか、「市民（地域住民）の一人として何ができるか」を考えます。「つながる・つなぐ力」「関係を形成する力」「地域の課題を発見する力」「地域に働きかける力」「人々とともに課題を解決する力」ほか、多くの実践力を身につけることができるのではと考えています。

【学習計画】

- 4・5月 知多半島を知る NPOを知る NPO や地域の課題・ニーズを理解する
- 6・7月 地域貢献活動の企画（活動先において、自分たちに何ができるかを考え、計画を立てる）
- 夏休み NPO での地域貢献活動（5日間）
- 9・10月 活動のふりかえり 活動報告会
- 11・12月 グループ研究（活動を通して感じた・学んだこと等について、さらに調べて探求する）
- 12月 グループ研究報告会

担当教員からのメッセージ

地域の中には困っていても「助けて」と言えず、あるいは、どうすればよいのかわからず、今もお苦しんでいる人がいると思います。特に、幼い子どもは、そのすべを知りません。また、核家族化が進み、親も孤独のなかで育児をしています。単身世帯や高齢者世帯も増加しています。地域のなかでお互いが気かけあい、助けが必要な人を見逃さないような「つながり」や「場」が多くあれば、SOS の声は届くのではないかと考えています。

大規模団地での多文化・多世代交流カフェサロンに関わっています。地域住民の方々が主体となり、サロンを拠点として課題解決を図っています。ここでのキーパーソンは外国の子どもたちです。子どもたちがカフェでのお手伝いを通して、日本のルールや文化を地域住民から学んでいます。そして、子どもたちが日本の大人・子どもと顔なじみの関係をつくり、親へとつないでいます。コロナ禍で、サロンは2年以上開催できていませんが、防災グループの発足や壁新聞の発行等、別の形での支え合いがひろがっています。

地域から学び、誰もが安心して暮らすことができる地域づくりについて、一緒に考えていきましょう。